

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年10月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101151		
法人名	社会福祉法人 愛の会		
事業所名	いろいろ端水戸	ユニット名	壺
所在地	〒311-4144 茨城県水戸市開江町国置8番地		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年7月7日	評価確定日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当法人は年度の部署別年間目標を立てております。いろいろ端の平成22年度部署別年間目標は《重点課題》・地域との交流を通して、地域の人々に対する理解を深めて頂くとともに、入居者にとって地域の中で生活している実感を持って頂けるように努める。・地域に密着し愛される施設と、こちらから地域に発信して貢献できる施設作りを目指す。・その方の思いの本質を見極め、本当の気持ちに寄り沿った支援を目指す。</p> <p>《総合目標》・住み慣れた地域の中で生きがいを持てる活動をして頂けるよう支援する。・「充実した」を感じる瞬間や笑顔でいられる時間を増やしていけるよう支援する。・その方の新しい思いに寄り添い、一人ひとりに合わせた介助を行うことができる。</p> <p>以上の重点課題や総合目標を踏まえて、具体的目標・重点項目等を立て、入居者一人ひとりに細やかな援助ができるように日々努力しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>水戸市におけるグループホームの先駆的な存在として、12名の正規職員のうち11名が介護福祉士であることなどから職員教育も含めて質の高い介護サービスの提供をめざし、日々精力的に取り組んでいる事業所である。</p> <p>「入居者の笑顔が私達の最高の喜び」という基本方針を掲げ、職員自身が笑顔で利用者に接するなど和やかな雰囲気が感じられる。</p> <p>職員のチームワークや地域の医療機関、民生委員などの支援に支えられ、利用者はゆったりとした穏やかな生活を過ごしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて行動できるように職員全員に理念の資料を配布している。また、廊下や事務所などの見やすい場所に掲示してあり、いつでも確認できるようにしている。	「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にします」を理念の一つに掲げ全職員で話し合い作成するとともに、理念が書かれたカードを胸章に入れ常に確認できるようにしているほか、実践に向け職員が笑顔であることを大切にしている。 「家庭的な雰囲気」という観点を理念に盛り込むまでには至っていない。	理念に「家庭的な雰囲気」という観点を盛り込むことを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、双葉台地区の運動会や敬老祝賀会などに参加している。近くの水戸市双葉台保育所の行事に招待されたり、こちらのイベントにも参加して頂いている。避難訓練や花火大会などには、地域の方にも参加して頂いて交流している。	利用者は地区の運動会に参加したり保育所を訪問しているほか、事業所の花火大会に地域の人々を招待したり、防災訓練に近隣住民の参加を得ている。 職員は自治会の資源ゴミ回収活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接しているデイサービスや窓口センターなどが主催する地域の方々に向けた講習会に講師を派遣し、協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで市役所などの職員・民生委員・他GH施設長・利用者・ご家族などを招いて開催している。その中でテーマに沿って話し合い、様々なアドバイスを頂き、日頃のサービスに活用している。	市職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。 委員から出た「地域住民が参加して、夜間想定避難訓練をしてはどうか」「地域に事業所の広報紙を配布してはどうか」などの提案を運営に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長が水戸市グループホーム協議会の役員となり、水戸市職員とグループホームの向上に努めている。また、水戸市職員に運営推進会議に参加していただいている。	施設長が市グループホーム協議会の役員を務めるとともに、主任介護支援専門員の資格を持ち、グループホームの質の向上に向けて市と連携して各種研修会を開催するとともに、研修会で当該事業所の看取りケアの実践などについて発表している。 市担当者は事業所を訪問した際に、グループホームの状況などについて活発に意見交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	廊下や事務所に「身体拘束のない介護」のポスターを掲示しており、いつでも職員が確認し理解できるようになっている。	職員は身体拘束防止に関する外部研修に参加し、その報告を兼ねた内部研修を実施している。 職員は身体拘束となる具体的な行為や弊害について正しく理解している。 見守りにより安全確保に努めつつ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止フォーラムなどの研修に職員が参加している。研修についての資料は、必ず全職員が閲覧できるようにしており、施設内研修なども行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、現在1名の方が利用されている。他の方については、必要に応じてご家族に情報を提供し、話し合いなどを行いながら、支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時・改定時には、利用者やそのご家族の不安や疑問に対して説明し、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が意見や要望を気軽に話しやすいようにこちらからも声かけをしている。また、年2回の家族会で意見交換を行うほか、面会時や必要であれば電話連絡などでもご意見を伺っている。	毎月家族等に送付している写真付き家族通信に、「どんな小さなことでもよいので意見や要望をお寄せください」という文言を入れ、家族等が意見や要望を出せるよう配慮しているほか、家族等に電話連絡した際に意見や要望を聴くように努めている。 「今月の予定の掲示がほしい」という家族の要望を受けて予定表ボードを設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設全体の全体会議・グループホーム全体会議・ユニット会議・その他随時意見や提案を聞く機会を設け、反映するようにしている。半期に1度の人事考課制度の中でも意見や考えを述べられるようにしている。	毎月開催する全体会議や月に数回開催するユニット会議において、進行役を交代で務めるなど職員が気軽に意見を言えるよう配慮している。 職員から出た室内の飾りつけや勤務体制の変更、設備導入に関する意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で人事考課制度を導入している。定期的に面談も行っている。職員各々のやりがいや向上心を聞く機会となっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できるように働きかけたり、職員から参加したい研修があれば自由に受けられるようになっている。また、研修終了後に他職員に対して研修を受けた職員が施設内研修を行う機会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内にある他グループホームとの交流研修を、職員全員が行い、サービスの質の向上に努めている。また、水戸市グループホーム協議会で行われる研修に参加したり、他グループホームの見学に行ったりしながら、質の向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人や家族などの訪問を受けたりこちらから訪問して、サービス内容を十分理解して頂いてから利用を開始している。また、利用開始後も不安な事などあれば、その都度傾聴し、安心して頂けるよう寄り添いながら援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時にはできるだけ要望に耳を傾け、利用中についても小さなことでも相談できるよう、こまめに連絡して話し合い、信頼関係が構築できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族などが、本当に必要としているサービスは何かを見極めるためにも、良く話し合い、真の思いに耳を傾けられるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・炊事などの生活全般を一緒に行い、お互い助け合える関係になれるよう、それぞれの生活の中に溶け込めるようにしている。利用者の方々から様々な事を学び、支えあえる関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には、本人を交えて一緒に話をし、現状のサービス状況をご理解いただけるよう努めている。面会が困難なご家族には、家族通信や電話にて連絡を取るようにしている。また、ご家族ならではの視点を大切にしながらご本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行きたいという要望があった場合、できるだけ行って頂けるよう支援している。また、ご家族や友人などにも面会にいつでも来ていただけるよう話し、足を運んで頂けるような雰囲気作りを心がけている。	利用者の元職場へのドライブや馴染みの理美容室への同行などを支援している。 利用者の誕生日には、日頃から行きたいと考えていた馴染みの芸術館や小学校への訪問を実現している。 墓参りなどの希望があった場合には、職員が同行し花を供えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で穏やかに過ごせるような座席の配慮をしている。また、職員が間に入る事で利用者同士が円滑なコミュニケーションを図れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も葬儀などに職員が参列している。また、偶然ご家族と会った時に挨拶をしたり、ご家族ご本人の様子や施設の状況を話したりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりの中からお本人の要望や希望を聞き、その都度取り入れるようにしている。困難な場合はご家族や職員間で話し合い、ご本人の希望に近づけるよう努力している。	職員は利用者と個別に話し合う機会を持つよう努めるとともに、把握できた思いや意向を利用者別の活動日誌に記録し全職員で共有している。 意向の把握が困難な場合には、利用者の言葉や表情から把握した思いや意向について全職員で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に必ずご家族等にこれまでの生活歴や暮らしぶりを聞いたり、書式に記入して頂くようにしている。入居後もご本人やご家族から聞き出せたことについては付け足して把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックをし、心身の状態を把握するように努めている。また、定期的にセンター方式を見直し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者やご家族などの意見を聞くと共に、職員が日頃の関わりの中で感じた事、気付いた事をケース会議で話し合い、作成している。	利用者や家族等の思いや意向の記録を踏まえて、介護支援専門員が作成した案をもとに全職員で話し合い介護計画を作成している。 介護計画をもとに生活援助計画を作成し、きめ細かな支援をしている。 計画の達成状況を1ヶ月毎にモニタリングするとともに、3ヶ月目に評価をして次の計画に結び付けている。 入退院や重度化などで利用者の心身の状態に変化が生じた場合には随時計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には毎日の様子を記入し、情報を共有している。また、ケアの気づきや工夫については、申し送りノートへの記入やケース会議などで取り上げて話し合い、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りに付き添ったり、一緒に自宅に戻ったりするなど個別のニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園やお菓子屋、スーパーの場所を把握し、利用者も活用できるよう支援している。出張理容などを利用される方もいらっしゃるが、その方のご希望により近所の美容室や馴染みの理容室を利用されている方もいらっしゃる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人や家族と話し合い、これまでのかかりつけ医を利用されている。かかりつけ医が遠い場合については、ご家族が協力して受診に付き添って下さったり、近くの医院にかかりつけ医を変更したりして、適切な医療を受けられるようにしている	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援するとともに、医師に病状を書面で伝えるなど適切な医療が受けられるように支援している。 受診結果を記録し全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護によるバイタルチェックがあり、その際入居者の状態報告を行っている。また、同じ建物内に訪問看護事業所があるため、すぐに相談する事も出来ている。急変時にも必要な看護やアドバイスを受けられる体制になっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には職員が交代で面会し、病棟のスタッフと情報交換している。また、病院の医療ソーシャルワーカーや看護師長とも何度も細かく話し合いをし、早期に退院できるように支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>今までターミナルを迎えた方は2名いらっしゃった。終末期を迎える前の段階でご本人の希望を聞くことができていた。また、ご家族・かかりつけ医・グループホームの3者で何度も話し合いを重ねてケアを行うことが出来た。</p>	<p>終末期ケアの開始にあたって、医師も同席して家族など関係者に事業所のケア方針を説明したうえで、利用者や家族等の意向を把握しながら看取り介護計画書を作成し家族等の同意を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応はマニュアル化しており、職員全員が対応できるようにしている。また、法人内で行われた救急救命講習会に参加したりしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の避難訓練を実施している。また、夜間想定避難訓練も別に行い、地域の方にご協力をお願いし、参加いただいている。</p>	<p>年2回の定期的な避難訓練のほかに、夜間想定避難訓練を実施している。</p> <p>避難訓練には10人を超える近隣住民が参加し、協力体制を構築している。</p> <p>避難訓練で明らかになった、「地域の方が十分に動けるよう指揮系統を明確にする」「車椅子の操作方法を知ってもらう」などの課題に取り組むまでには至っていない。</p>	<p>「災害は待ってくれない」ということを再認識し、避難訓練で明らかになった課題への対策が望まれる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に自然な言葉かけで接すると共に、利用者の尊厳を大切にしている。記録に関しても個人情報保護の保護に心がけている。	職員は利用者との距離感を測りながら、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけをしている。 利用者が近くにいる場所で業務の引き継ぎをする際には、氏名を出さずに部屋番号などで話すよう配慮をしている。 個人情報記載されたコピーや書類等は、使用後に裁断するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の性格やその時の状態によって思いや希望を表すことが出来なくても、日頃の様子を観察し、自己決定できるように支援している。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者に合わせてできるだけ本人の希望に合った生活をしていけるように努めている。起床時間などについても、その方の体調にあわせて無理のないように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好みを聞いたり、家族等に聞いたりしてその人らしい身だしなみができるように支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回利用者と職員が協力し、一緒に準備や片づけを行っている。食事でも利用者と一緒に摂る事でコミュニケーションのひとつになっている。	献立は併設している通所介護事業所の栄養士が利用者の嗜好に配慮しながら作成している。 利用者一人ひとりが能力に合わせて食事の準備や後片付けをしている。 誕生日や行事の際には特別メニューを設定するなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの食事量や水分量は毎日チェックしADL表に記入している。量が低下している場合は、医師や看護師に連絡相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に利用者に合わせて口腔ケアを行っている。夜間は毎日義歯洗浄も行っている。必要に応じて歯科受診し、適切な指導または治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表をもとにパットを使用しないケアについてケース会議で話し合うなど、排泄の自立に向けた支援をしている。 トイレ誘導の際には排泄を連想させるような言葉を避け、「東京へ行ってこようか」と声かけするなどの工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、運動や多めの水分摂取・食事量・乳酸菌飲料の摂取などを、一人ひとりの排便リズムに合わせて少しずつ変えて取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴する機会があるので、ご本人の希望に沿った入浴を楽しんで頂いている。	毎日午後の時間帯の入浴となっているが、希望があれば他の時間帯の入浴も可能である。 入浴を拒む利用者には別な職員が声かけするなど、対応の雰囲気を変えながらできるだけ入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息したり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助マニュアルに沿って職員全員が確認することで、安全な服薬支援ができるようになっている。医療機関から処方される薬の説明書を個人ファイルに保管するだけでなく、通院記録に詳細を記載するようにし、症状の変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に必ずバックグラウンドを取り、個々の生活歴を生かした役割や楽しみごとを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により近くの公園へ行ったり、散歩や買い物などへ行っている。遠くについても利用者の希望に合わせ、車やバスを利用して出かけている。また、なかなか希望を取りづらい方についてはご家族と相談したり、バックグラウンドを参考にしたりしながら、ご本人が以前好んでいた所や馴染みの場所などにも出かけられるようにしている。	週2回程度スーパーやショッピングモールへ買い物に出かけている。天気の良い日には近くの保育園や事業所周辺の散策に出かけている。ごみ収集日には職員と一緒にごみ出しに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの残存能力に応じて買い物の際には、預かり金で支払う事もあるが、買い物の際に預かり金を渡し、支払って頂く事もある。また管理できる方については、ご本人の持っているお金で支払って頂く事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話する事が出来るように自室に電話を引いている方もいる。他の方についても、ご本人の希望により事務所の電話からかけることが出来るように支援している。また、手紙も自由にやり取りする事ができている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な状況がないかケース会議で話し合ったり、センター方式のシートで定期的に見直しをしている。改善点がある場合については、すぐに改善できるように努めている。季節に合った花を飾ったり、カレンダーをフロアに貼ったりして季節感や生活感を取り入れている。	天井が高く広々とした共用空間に掘ごたつのある小上がりの畳部屋を設置し、ゆったりと過ごせるよう工夫している。 デッキでお茶が飲めるようテーブルと椅子を用意し、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのあちこちに椅子やソファを配置し、利用者同士が気軽に座って会話ができるようにしている。一人になりたい時には、居室に自由に帰ることも出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居開始時になるべくご本人の馴染みのあるもの（仏壇やタンスなど）を持ってきていただくように説明している。それにより家庭に近い環境の中で落ち着いて生活して頂けるよう支援している。	居室に備え付けの品物を置かないという事業所方針のもと、利用者が使用していた身の回りの物を居室に持ち込んでもらうようにしている。利用者の居室には使い慣れたタンスや鏡台、ベッドのほか、仏壇や家族写真などが持ち込まれており、利用者が居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口やフロア・廊下・トイレ・浴室には手すりを用意し、出来るだけ安全に歩行して頂けるよう工夫している。また、入居者の方に合わせて居室入り口に名前の札を貼ったり、タンスにわかりやすくラベルを貼り、自ら使用できるように促している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 いろり端水戸

作成日 平成22年10月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	・理念に「家庭的な雰囲気」という観点を盛り込むこと。	・「家庭的な雰囲気」という言葉は、運営方針や処遇方針には盛り込まれているのでその精神を理念にも盛り込む。	・「家庭的な雰囲気」という観点を理念にも盛り込み、職員にも周知しする。	・直ちに。
2	13	・災害時の地域との連携体制を避難訓練をとおして築いてきたが、まだ指揮系統の明確化や車いすの操作方法など地域の方への対応の不備がある。	・次回の避難訓練時までに指揮系統を明確にする。 ・車椅子の操作方法を地域の人にも学んでいただき、協力体制を強化する。	・災害時の指揮系統を明文化する。 ・住民向けの車椅子の操作方法についての研修会を開く。	・11月8日の避難訓練時までに行う。 ・避難訓練時に研修会を開く。
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。